ジュニアライターがゆく

被爆樹木の今 世界に伝える

広島市中心部を歩くと、原爆の惨状を生き延びた「被爆樹木」に出合います。爆風や熱線で傷つきながらも新しい芽を出して力強く育つ様子は、市民に希望を与えてきました。中国新聞ジュニアライターは、被爆樹木を訪ね歩いてストーリーを考え、米国のアーティストたちと一緒に紙芝居を作りました。被爆樹木の種や苗木を海外に贈る団体の活動にも参加しました。広島市民の平和への思いが込められている被爆樹木について、国内外にもっと知ってもらいたいです。

イチョウ題材 紙芝居作り

安楽寺の被爆イチョウの前で、登世岡前住職（左から2人目）に話を聞くハーシーさん（右端）とジュニアライター

広島市は、爆心地からおおむね2キロ以内に被爆前からあった約160本を「被爆樹木」として登録しています。東区牛田本町の安楽寺にあるイチョウも含まれます。爆心地から2・1キロの境内で被爆し、幹の一部が燃えましたが、今はたくさんの葉を付けて大きく育っています。

安楽寺を訪れ、前住職で被爆者の登世岡浩治さん(89)から当時の話を聞きました。弟の純治さん=当時(12)=は、やけどで全身真っ黒になり、苦しみながら寺で亡くなったそうです。原爆投下の翌年にイチョウが新しい芽を出して、周りの住民を勇気づけたといいます。

旧日本銀行広島支店（中区）であった平和イベント「ゼロプロジェクト広島」のワークショップに参加して、このイチョウを主人公に紙芝居を作りました。イベントを主催したのは、米国人アーティストのキャノン・ハーシーさん(42)が代表を務める団体です。

シナリオを考え、画用紙8枚に、物語の場面を想像しながらクレヨンや筆ペンで描きました。ちぎった折り紙で葉の立体感を出し、本物のイチョウの葉を貼って木の生き生きとした様子を表現しました。

米芸術家と作業 核廃絶の思い込めた

紙芝居が完成するまでの作業を動画撮影してもらい、ジュニアライターの声でナレーションを録音しました。それを映像作家のピーター・ビルさん(49)が約6分の映像作品にしました。英語版も作り、ハーシーさんたちが来春、米ニューヨークなどで披露する予定です。「核兵器のない世界の実現を目指そう」という私たちの思いが原爆に関心のない大人や、子どもたちに伝わってほしいです。

ビルさん（左から5人目）と完成した紙芝居の出来栄えを確認するジュニアライター

ウェブサイトで動画も見れます

完成した紙芝居

種集め 生命力を実感

36の国・地域で芽吹く

広島市の市民団体「グリーン・レガシー・ヒロシマ・イニシアティブ（GLH）」は、被爆樹木から採った種や、その種から育てた苗木を海外の学校や平和団体に贈っています。10月初旬、GLHの約30人が被爆イチョウと被爆クロガネモチの種を集める活動をしました。

爆心地から1・3キロの縮景園（中区）に立つイチョウは、爆風で幹が傾いていますが、高さ17メートルと大きな木です。周囲の草をかき分けてみると、ギンナンがたくさん落ちています。木の生命力を感じました。

広島城のクロガネモチは爆心地から910メートルで被爆しました。木肌はでこぼこして黒く、被爆した時に焦げたことが分かります。赤い実をつぶして中の種を採ります。小さくて集めるのに苦労しました。種は、樹木医の協力を得て市植物公園（佐伯区）で保管し、海外に郵送するそうです。

GLHは、ユニタール（国連訓練調査研究所）広島事務所（中区）と、NPO法人ANT-Hiroshima（同）が2012年に始めました。ナスリーン・アジミ代表(60)は「被爆樹木2世がさまざまな場所で育ち、人の目に触れることで木の背景やヒロシマの思いを知ってもらえる」と話しました。

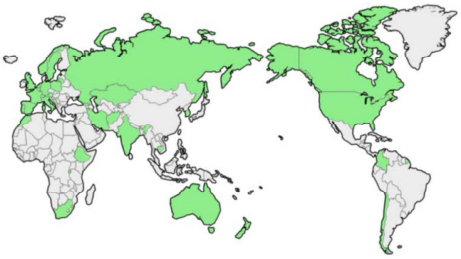
種や苗木の贈り先は、核保有国の英国やフランスなどを含め36カ国・地域に広がっています。このような小さな活動も積み重ねていくと核兵器廃絶に向けた大きな力になると思いました。

平和首長会議（会長・松井一実広島市長）も、14年から加盟自治体を対象に種や苗を贈っています。国内では31都道府県の110自治体、海外では18カ国54都市に届けています。

縮景園で被爆したイチョウのギンナンを集めるジュニアライターとGLHのメンバー

グリーン・レガシー・ヒロシマ・イニシアティブと平和首長会議が被爆樹木の種や苗木を送った国と地域

※両団体のホームページを参考に作成



欧州	ベルギー	カンボジア
イタリア	ポーランド	シンガポール
英国	ボスニア・ヘルツェゴビナ	ニュージーランド
オーストリア	ポルトガル	**アフリカ**
オランダ	リトアニア	エチオピア
カザフスタン	ロシア	南アフリカ
ジョージア	**中東**	モロッコ
スイス	アフガニスタン	ルワンダ
スウェーデン	イラン	**北米**
スペイン	パレスチナ自治政府	米国
スロベニア	**アジア・オセアニア**	カナダ
ドイツ	インド	**中南米**
ノルウェー	オーストラリア	コロンビア
フランス	韓国	チリ

私たちが担当しました

この取材は、高2川岸言織、フィリックス・ウォルシュ、高1森本柚衣、柚木優里奈、中3岡島由奈、桂一葉、林田愛由、中2中島優野、中1俵千尋、田口詩乃、山瀬ちひろが担当しました。

次回は12月10日に掲載します。取材を通して中国新聞ジュニアライターが感じたことをヒロシマ平和メディアセンターのウェブサイトで読むことができます。